

2026 年度 中国地区協議会 褒賞登録申請書・概要書

【褒賞登録申請書・概要書】

事業名称	Hiroshima PEACE IGNITER Program
申請部門	対外事業( <input checked="" type="checkbox"/> まちづくり <input type="checkbox"/> 青少年 <input type="checkbox"/> アイデア)・ <input type="checkbox"/> 対内事業部門

申請 LOM	一般社団法人広島青年会議所		
LOM 番号	16	LOM の人数	91
理事長名	山下 竜一		
担当者名	黒川 健		
担当者携帯番号 (半角)	090-6833-9753	担当者 E-Mail (半角)	ke-kurokawa@naganuma.co.jp

本事業の参加者	会員数	延べ 21名	会員参加率	4%
	関係者数	15名	一般参加数	452名
事業実施に至った背景	広島は平和の尊さを世界に訴え続けてきたが、いまだ戦争や内戦は続いています。これからの広島には、平和の尊さを訴えるだけでなく、平和の本質である「相互理解から生まれる他者への思いやりの心」を伝え、世界中で平和に向けて行動を起こす人財を広げていく役割が求められると考え、本事業を実施しました。			
事業の目的	①参加者が異なる文化や価値観を尊重し合うことで、世界へ平和を広げる行動を起こすきっかけとする。 ②平和を自分事化し、周囲と平和を語るきっかけとする。			
事業の概要	国内外の青年世代を対象に、事前説明会、宮島合宿、中間セッション、広島再集結編の4段階プログラムを実施しました。平和記念資料館での学び、宮島・大聖院での対話、参加者による平和アクションの共有に加え、最終日には戦争や迫害の歴史と向き合い続けてきた家系を背景に持つ方達の団体である HOPE80 TALKS と Igniter Progress Exchange を開催し、広島市民も巻き込みながら平和を語り合う場を創出しました。 ※HOPE80(ホープ 80)とは、2025 年の戦後 80 年を機に、第二次世界大戦時の敵国リーダーの子孫(ガンジー、トルーマン、チャーチル、東條など)が「希望の火」を掲げ、平和を訴えながら世界を巡礼するプロジェクト。			
開催時期・ タイムスケジュール	2025 年 6 月 28 日(土)18:00~19:00 STEP1 事前説明会 2025 年 7 月 12 日(土)9:00~23:00・7 月 13 日(日)7:00~16:00 STEP2 宮島合宿編 2025 年 8 月中 STEP3 中間セッション 2025 年 9 月 14 日(日)9:15~16:30 STEP4 広島再集結編(トークセッション 12:30~14:35)			
開催場所	オンライン、広島国際会議場、平和記念公園及び周辺、宗教法人大聖院			

事業総決算・収支	予算上の工夫と、決算の内訳の概算を記述してください。	
	<p>予算総額 2,910,000 円、決算総額 2,754,030 円。参加者登録料、寄付金、協賛金、特別事業費、委員会事業費を組み合わせることで運営しました。主な支出は会場費、食事代、旅費交通費、広報・制作費等であり、国内外の参加者が深く対話できる環境整備に予算を重点配分しました。</p>	
協力団体	共催	国連訓練調査研究所(UNITAR)広島事務所
	協賛	株式会社朝日広告ビル、ソニー生命保険株式会社、オタフクソース株式会社、株式会社ひろぎんホールディングス、広島電鉄株式会社、ヒロマツホールディングス株式会社、広島信用金庫 ほか
	後援	広島県、広島市、独立行政法人国際協力機構(JICA)
	その他	NPO 法人アースキャラバン(HOPE80)、公益財団法人ひろしま国際センター、広島日タイ友好協会、広島大学、県立広島大学、NPO 法人 Peace Culture Village、株式会社テレビ新広島、株式会社 RCC、一般社団法人国連ユニタール協会 ほか
事業対象者	青年世代の日本人及び外国人、広島市民	
行動(ACTION TAKEN)	事業の調査、立案、会議の流れ、実施活動について記入	
	<p>国内外の青年世代に対して多方面から参加募集を行い、広島在住の関係者や国際交流団体、JICA、ひろしま国際センター、大学等と連携して参加者を確保しました。事前説明会で相互理解の土台をつくり、宮島合宿では平和記念資料館見学、講演、対話、採火体験等を実施しました。中間セッションでは各自の平和アクションを深め、最終日の広島再集結編では市民向けトークセッションと参加者発表を通じて学びを社会へ開きました。</p>	
結果(RESULT)	<p>複数の短い文章になるように下記項目毎に簡潔に記載</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.目的がどのくらい達成できたか</li> <li>2.上記の結果の想定外の結果</li> <li>3.上記の結果の確認方法</li> <li>4.検証結果</li> </ol>	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事後アンケートでは「異なる文化的背景を持つ人々と協働する力が高まった」「他者の視点の価値を理解できた」が平均 4.7~4.8(5 段階)となり、前後比較でも約 4%上昇しました。また、HOPE80 TALKS 後は 99.1%が平和の課題を自分の身近なこととして感じ、96.5%が「平和について話したり行動したりするきっかけになった」と回答しました。</li> <li>2. 継続的な行動意欲に一部わずかな低下が見られましたが、これは現実的</li> </ol>	

	<p>な制約を自覚した結果であり、むしろ行動を続ける仕組みの必要性が明確になりました。また、PCVの高校生ファシリテーターから青年会議所活動への強い憧れの声が上がる副次的成果も生まれました。</p> <p>3. 事前・事後アンケート、自由記述、発表内容、HOPE80メンバーからのフィードバックを用いて検証しました。</p> <p>4. 参加者は平和を概念ではなく実践として捉え、自国や身近な場で平和を広げようとする意識を高めました。両目的とも高い水準で達成できたと思います。</p>
地域社会への影響	<p>この事業が与えた地域社会への影響を記入</p> <p>広島が多様な国や立場を超えて平和を語り合う舞台となり、歴史的対立の当事者家系を招いた対話も含めて、国際平和都市としての存在感を高めました。メディア掲載や市民参加により、平和を身近なテーマとして考える契機を広く地域社会に提供できました。</p>
LOM への影響	<p>この事業が LOM に与えた影響を記入</p> <p>委員会メンバーは、多文化・多言語環境における事業運営、国際機関や大学、NPO との連携、対話を通じた価値創造を実践的に学びました。広島青年会議所の活動が次世代の若者に目標として映ったことも、LOM の存在意義を高める成果となりました。</p>
事業の長期的な影響	<p>この事業の期待される長期的な影響を記入</p> <p>参加者が帰国後・帰郷後もそれぞれの地域で平和の実践者として行動し、広島で生まれた学びと絆が世界へ広がっていくことが期待されます。広島を起点とする平和の連鎖と国際ネットワークは、今後の平和事業の土台となります。</p>
その他	<p>その他のアピールや補足があれば記入</p> <p>本事業は、被爆 80 年という節目に、広島から平和の本質である「相互理解と思いやり」を世界へ届けたいという強い思いのもと実施したものです。国や宗教、文化の違いを越えて対話し、互いを理解しようとする姿は、まさに私たちが目指した平和の形である。特に歴史的背景を越えた対話の実現は、広島だからこそ生み出した価値であり、大きな意義を持ちます。参加者が学びを行動へと変え始めた姿から、平和の連鎖が確かに生まれたと実感できました。本事業は、平和は一人ひとりの意志と行動から築かれるものであることを</p>

	強く示せました。
当日のストーリー写真 (PDF)	・添付書類は1ファイルにつきA4用紙で2枚以内(1枚につき添付できる写真は6枚までとします。)で作成してください。
メディア掲載写真 (PDF)	・作成後PDF形式に変換して提出してください。
その他参考資料 (PDF)	・別途、事業に関する代表的な写真を2枚JPEGデータでも提出してください。(PDF資料と同じものでもかまいません) ・著作権及び肖像権を侵害する形での画像の使用は禁止します。
著作権及び肖像権	権利侵害が無い事を確認したらチェックをしてください。☑